

地域日本語教育コーディネーター(CD)研修 冬期研修 実践活動報告

東11 高山 晃 | 袋井市国際交流協会

■私の役割: 袋井市地域日本語教育CD | 静岡県中部エリア担当地域日本語教育CD

■課題設定の背景:

静岡県では「地域日本語教育推進方針」に基づき、令和2年度から「地域日本語教育体制構築事業」にて市町自治体が主体となった「対話交流型初期日本語教室」の展開を進めている。現在、「対話交流型初期日本語教室」プログラムを開始した市町が広がってきたが、プログラムの継続にいくつかの課題が出てきている。

■課題と選定

プログラム継続の課題は大きく以下4点。この中の1課題に対する自市での活動を報告する。

- 指導者の確保と育成
- 教室活動の主体となるサポーターの育成
- 市町担当者の異動 etc による体制・態勢の再構築



◎教室活動の改善とトライ項目の織り込み (前年度のA=>今年度のP・D)

■取組施策

前年度のふり返りから教室活動のトライ項目を設定・実施することで、活動を活性化する。

・・・参加者全員が新鮮な気持ちで活動し互いに響き合える。

手順: ①運営委員会で、本年度のコンセプト(キャッチフレーズ)、到達目標の設定・共有

②カリキュラムに、①につながる活動項目(トピック・テーマ)を織り込む

③ ①と②をつなぐ教材や環境づくりをする

④活動する

C

⑤運営委員会で、活動状況、コースデザイン評価、学習者・サポーターからの声をもとにふり返り、下記コンセプト、年間到達目標に対する評価をする。

A

⑥ 上記をもとに、市担当課と次年度の方向性、トライ項目を検討する。

P

D

■具体的活動

①運営委員会で、本年度のコンセプト(キャッチフレーズ)、年度到達目標を設定し共有する

コンセプト: 「話そう つながろう 袋井のまちで」

年度到達目標:

- ・学習者: 教室での対話や情報をきっかけに、何かしら新しい経験や行動をしてみた (誰かと日本語で話した、行ったことのない施設やお店にいったみた、日本料理を食べた等)
- ・支援者: 教室の活動や袋井市に住む外国人について、教室外で2回以上誰かと話した

②カリキュラムに、①につながる活動項目(トピック・テーマ)を織り込む

- ・運営委員会で、コースデザインする ... 全10回中、3回を文化体験活動に
- ・コンセプトに基づいた文化体験トピックの設定

文化体験

| | 開催日 | トピック・テーマ | 備考 |
|-----|------|-------------------|------------|
| 第2回 | 8/20 | 防災体験交流「さいがいのじゅんぴ」 | 外国人住民間の交流 |
| 第6回 | 9/24 | ゴミの出し方 | 地域活動への理解 |
| 第8回 | 10/8 | 祭り・行事 | 地域の行事に参加する |

③ ①と②をつなぐ教材や環境づくりをする

●文化体験 … 環境づくりと反響

- ・防災体験：市イベント「外国人向け防災体験交流」と合同開催
→ 体験と対話交流をつなげた活動が好評で手法に手ごたえ
- ・ゴミの出し方：昨年実施し「はじめてわかった！」と好評だったものを、自治会などからの苦情が多い事項を組込み、体験と対話交流活動に再構成
→ 近隣の市町のゴミの出し方、指定袋など参加者の環境も踏まえての活動内容が、「わかりやすい！」と好評
- ・祭り：協力自治会の目星を付け、顔役にコネクションが効く指導者を担当者に
→ 祭りを実体験する内容を自治会で設定いただき、地元地域の人と一緒に祭りに参加する「楽しさ」を全員が体感

●自律学習への意識づけ

- ・自己能力判定：開始時と終了時に、学習者自身が日本語力(話す・聞く)を評価
- ・「できるようになりたいこと」：将来の目標と環境・どうしてこうか、なにができたか など
- ・ポートフォリオ：教室活動で用いたワークシート類と上記シートをファイル
活動後の、日本語の自律学習への意識づけになることを期待

⑤ ふり返り：学習者、サポーターのふり返りアンケート結果と、運営サイドのふり返りにより、「できたこと、できなかったこと」から、課題を洗い出す。

- ・学習者の日本語力の違いを吸収できる仕組みが不足
- ・サポーターの活動ステップへの理解度バラツキの対応をOJTに頼りすぎている
- ・自律学習へのきっかけづくりが弱い
- ・コンセプト、年度達成目標は参加者が意識できる仕組みが不足

⑥ 次年度の方向性検討（今後の動き）

- 運営委員会：
 - ・指導者確保：来期も継続いただける好感触！
 - ・来期プログラムの方向性：今期の方向性で合意
- 事務局検討：
 - ・2月上旬からCDと意見交換開始

以上